

第2回蒲郡市産業振興会議 会議録

開催日時	令和4年11月10日（木）午前10時00分～正午	
開催場所	蒲郡市役所本館3階 303会議室	
出席者	【蒲郡市産業振興会議委員】（敬称略）	
	蒲郡商工会議所	会頭 小澤素生 （株式会社ニデック 代表取締役社長）
	蒲郡市観光協会	会長 杉山和弘 （株式会社明山荘 代表取締役社長）
	蒲郡市農業協同組合	代表理事組合長 鈴木茂正 （蒲郡市農業協同組合 代表理事組合長）
	蒲郡市漁業振興協議会	会長 小林俊雄 （三谷漁業協同組合 代表理事組合長）
	蒲郡鉄工会	会長 近藤昌泰 （株式会社近藤鐵工所 代表取締役会長）
	蒲郡金融協会	会長 河合博 （蒲郡信用金庫 専務理事）
	小池商事株式会社	代表取締役社長 小池高弘
	株式会社金トビ志賀	代表取締役 志賀重介
	株式会社ミスコンシャス	代表取締役社長 小山絵実
	愛知工科大学	情報メディア学科 准教授 加藤央昌
	愛知大学	地域政策学部教授 戸田敏行
	豊橋技術科学大学	大学院工学研究科 機械工学系教授 高山弘太郎
	蒲郡市	産業振興部部長 池田高啓
	【欠席者】	
	稲葉製綱株式会社	取締役専務 稲葉千穂子
	【事務局】	
	蒲郡市	産業振興部次長 （観光まちづくり・農林水産担当） 廣中朝洋
	蒲郡市	産業振興部観光まちづくり課長 小田芳弘
	蒲郡市	産業振興部産業政策課長 鈴木直美
蒲郡市	産業振興部産業政策課長補佐 坂口敏行	
（公社）東三河地域研究センター （ビジョン策定業務受託者）	主任研究員 佐藤克彦	
他6名		

議題	<p>(1) 蒲郡市産業振興ビジョン（案）について</p> <p>(2) K P I の設定について</p> <p>(3) 今後のスケジュールについて</p> <p>(4) その他</p>
会議資料	<p><b>資料1</b> 議事次第</p> <p><b>資料2</b> 蒲郡市産業振興会議委員名簿</p> <p><b>資料3</b> 蒲郡市産業振興ビジョン（案）</p> <p><b>資料4</b> アンケート調査及びヒアリング調査の参考資料</p> <p><b>資料5</b> 第五次蒲郡市総合計画 第4章産業 指標一覧</p> <p><b>資料6</b> 今後のスケジュール</p> <p><b>追加資料</b> 第2回蒲郡市産業振興会議の目的      施策の方向性と具体的な取り組み      蒲郡市産業振興ビジョンの検討への意見提出用紙</p>
会議内容	<p><b>1. 開会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月1日付で小澤委員が蒲郡商工会議所会頭に就任され、委員の委嘱を変更するところではあるが、小澤委員には蒲郡商工会議所の代表として、小池委員には事業者代表として引き続きご参画いただきたい。</li> </ul> <p><b>2. 第1回蒲郡市産業振興会議録の保存</b></p> <p>○戸田会長、高山副会長による署名</p> <p><b>3. 議事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議題1から3について、今後のスケジュール、現況分析と施策の方向性、K P I の設定となっているが、事務局より説明を受けた後で意見をいただきたいと思う。適時質問は受け付ける。</li> </ul> <p>(1) 今後のスケジュールについて</p> <p>○追加資料「第2回蒲郡市産業振興会議の目的」の説明</p> <p>○資料6「今後のスケジュールについて」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回産業振興会議の目的と今後のスケジュールについて意見や質問を受け付ける。</li> </ul> <p>(2) 現況分析と施策の方向性について</p> <p>○資料3「現況分析と施策の方向性（案）」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点戦略の部分について、詳細な説明を行ったほうが、意見が出やすいと思う。</li> </ul> <p>○資料3「現況分析と施策の方向性（案）」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点戦略が複雑化しないように体系化したいと考えている。重点戦略から施策の方向性、具体的な取り組みへという形で表現し、ビジュアル的にわかりやすいものに整理する。</li> <li>・今日説明していただいた資料の位置付けについて、本日のディスカッションを経てビジョン案が出ると思うが、今説明していただいた資料そのものがビジョン案になるのか、それともこの中の一部が、次回のビジョン案になるのか、この資料の使われ方というものを、もう一度少し説明していただきたい。</li> </ul>

- 本日示した現況分析の施策の方向性、章立てに基づいて、次回会議でビジョン案として構成していく予定だが、2章の現況分析、現状と課題のところのボリュームが多いため簡素化し、3章4章のイメージを膨らませて分かりやすい構成へ変える可能性はある。現状としてはこの1章から5章の構成で、多くてもこのボリュームで、ビジョン案として提示したいと考えている。皆様にわかりやすい、もしくは読んでいただきやすい冊子にしようとしたときに、このボリュームだとなかなか手に取りにくいなというところは少し感じておりますので、もう少しコンパクトに、要点を絞ったビジョンにしていきたいと考えている。
- 基本的にはこれがビジョンの大元案になる。ここからブラッシュアップをしていくという考え方となり、文章の部分は図式化や文章の整理を行い、ボリュームの方を変えていく形になる。
- 文章表現や項目も今後変わるという認識で良いか。本ビジョンの内容でも「ビジョン」という言葉が使われているため複雑に感じる。

○追加資料「施策の方向性と具体的な取り組み」の説明

(3) KPI の設定について

○資料6「第五次蒲郡市総合計画 産業 指標一覧」の説明

#### 4. 意見交換

- ・重点戦略の背景に関しては良いと思う。
- ・アンケートを配った対象に対して答えている方は、農業分野は配布数に対し、返す人が多い印象を受けた。土着して行う産業なので市への期待が大きいのだろうなという印象がある。
- ・プロジェクトの重点戦略については、重点戦略1～3が入れ子構造になっており、それぞれが相乗するようなどころもあるのかなと思う。
- ・言葉として、レジリエンスは業界によっては流行り言葉なのでよく使うが、説明があっても良いのかなと思う。イノベーションも関係ないと思ってしまう市民が多いかもしれないなというような気がする。
- ・施策の方向性については、イノベーションの創出促進というところに雇用創出を加えると荷が重くなるので、レジリエンスの方に雇用創出の促進を入れた方がいいのかなど、言葉や入れ替えは必要かと思う。
- ・しばしば出てくる新しいアクティビティ等を既存の企業でも行い、また起業等を行うにしても人材をどう盛り上げるかが重要だと思う。この地域で活躍されている方もいるので、熱意人材のグループ化をどうするのか、それがあつた一つのグループに偏らないような、ハンドリングをどうするのかというところは必要である。ビジネスを創出にはメンターを据えて、引っ張っていくというような事が重要だと思う。
- ・これに関するプロジェクトは、重点戦略3に偏るものではなく、それぞれの重点戦略から、そのような人材や窓口を作つて、どのようにアクティビティをやっていくのかというのを具体化していくというグループは必要かなと思う。
- ・KPIについては、アウトプットとしてはすごく重要だが、これに必死になると手前が大変なので、人の巻き込みというような最初のステップと、最後のアウトプットのような二段階でKPIを設定されてどうか。いくつかの施策があつたとしたら、それぞれの施策に対してこの人のこのアクティビティがモデルですというような、そんなものができ上がつてきて、何%でき上がつてきたのかというところが一段階目のKPIで、これに基づいて、その次にステップアップするとKPIとしてアウトプットの金額みたいなところがあつてもいいのかなと思う。一つ目のKPIで最後のKPIを少し修正するなど、重み付けを変えるとといったこともできるかと思うので、その辺も検討していただけるとフレキシブルになると感じた。

- ・アンケートの調査回収率が21%となっているが、これ自体すごく危機感を感じる。蒲郡市の方々の意識が、実は低いままになってしまっているのではないかとこのところが気になる。回収率21%となっていますので、残りの8割の中に本当に解決すべき課題が実はあって、そこを土台として持ち上げていかないといけないのではないかと感じた。
- ・今回の回答内容について別途また問い合わせをしてもいいですかという間に対して、「不可」と答えている回答数が非常に多いというところがあるため、このあたりのところをどうやってまた意見を回収していくのだろうかというところがすごく疑問になっている。その部分も考慮する必要がある。
- ・事務局の立場も含めて意見を申し上げる。アンケートについて、今回は大規模に行った。そして様々な意見があり、中には厳しいご意見もあった。
- ・ヒアリングについては、産業振興部の職員も行い、事業者の方からご意見をいただいて大変勉強になったと感じる。
- ・昨今の社会情勢の中で、本当に切実な思いの中で、人材の問題、人材育成の問題、後継者の問題、事業承継の問題、環境の問題やこれからの販路の問題、またITやイノベーションの問題等あった。
- ・工業については工業用地が欲しいという意見もたくさんあり、そういったところを踏まえて、この産業振興ビジョンについては産業分野の次の将来に向かって、明るく未来が開けるようなビジョンを作りたいと思っている。
- ・KPIの設定については、総合計画のほうの指標というものがあるが、それにこだわらず、各業界の中でわかりやすい指標を設定し、この会議の中で軌道修正していったり、反省したり、また新たな施策を作っていくような方向性としたい。
- ・「ミッション」「ビジョン」「バリュー」に関しては、分かりやすく良いと思う。
- ・ただ、「ミッション」の内容に関しては、漢字が多くて少し難しいという感じはある。
- ・「ビジョン」「バリュー」は、市民の方にもすごくわかりやすくいいなと思う。
- ・ビジョンの内容の順序に関しては、第3章が一番前に来て、その背景に何があるというところで、細かく説明していくという様にしないと、最初の入りが甘くなるという感じがする。
- ・内容に関しては、自分自身の会社に関わることがすごく少ないなと思う。新興企業で女性でというので、ここに来させてもらっていると思うので申し上げますと、女性活躍に関しての記述が殆どなく、イノベーションの創出や人材という部分で、多様性や女性等の活躍促進という費用や助成といった具体的な取組があまり書いてないと感じる。
- ・35ページの基本方針の商業サービス業にある「魅力ある個店の育成並びに商業地の形成及び活性化」に関して、商業サービス業のKPIは卸小売に限られており、新しいイノベーションを創出したいと言う割には、ウェブ系の事業やコンサルの事業を本当に伸ばしたいというKPIには実際になってないと感じた。このKPIにしてしまうと、卸小売に施策が寄りそうだと感じたので、そこは少し課題だと思う。
- ・昭和から事業を展開している製造業としては、ここ数年、これから10年程でいろいろなことが大きく変わりそうな予感がしている。伝統的な食品製造や、昭和の製造業で今まで頑張ってきたところにも押し寄せ、こちらから波をとらえるように少しでも頑張っていないと取り残されるという危機感がある。
- ・この8年間でどうするか、8年後からその先を見据えたビジョンをつくるということだと、もう少し先のことを書かないと、「今の施策でこれは網羅しています、これはすでにやっています」という振り返りでは間に合わないと思う。
- ・例えば1企業の中で考えると、デジタルがどんどん入ってくるべきで、それによって若い人が「伝統産業だけど、結構データ分析やっていて面白いんだよね」と大学を出たような情報に長けた人材が入ってくるようになったり、「よく見る商材を扱っている昔からのスーパーさんなんだけど、実は、ECサイトで海外にも売ってるんだよね」というようになっていかないと生き残れないと思う。

- そのための施策として期待することは企業内リカレント教育であり、勘と度胸と経験でやってきた職人達に、データが分かるような勉強会を行い、最新の分野を少し勉強してそれが会社に導入されても準備ができていようにする。
- 職人の技術が全部データとなることで若い人が技術承継でき、イノベーションにも繋がると思う。データインフラを企業に導入するようなことを書くと面白いかなと思う。
- 市と市民や、市と企業の繋がり方で考えると、回覧板でやる時代から情報がデータで届く時代になるべきだと思うため、全市民がデータで繋がる方向に持っていく、それをベースに市民がレベルアップをして、その市民が働く企業がレベルアップをしていくというように書いてあると面白いと思う。
- 現状、仕入れる、作る、売るということをデータ抜きではできないため、そういう方向にみんなが向かう、そんなビジョンがあっても良いと思う。
- 第4章の重点戦略「チャレンジ」「レジリエンス」「イノベーション」という言葉について、「チャレンジ」というと、イノベーションはチャレンジする姿勢の問題の言葉だと思う。「イノベーションの創出」はもう少し具体的な内容を持っているため、言葉を選ぶ必要があると思う。「チャレンジ」のところに「イノベーション」のことも入っている。
- 「レジリエンス」は持続性という意味なら良いが、今のコロナ禍から回復するという意味合いで使うと、2030年までの戦略が、ビジョンを作っている割には短期的な話になってくるため、実際は3つの重点戦略と短期長期というマトリックスの中で行われることだと思うが、ぱっと見ると理解しがたいなと思う。
- 例えば「連携」はすごく大切に、業種交流も含めた連携はすごく大切になってくると思う。業種を超えることをオープンイノベーションだけで語っているが、どちらかというところ、それがイノベーションよりの言葉としてとらえられている。
- 観光はレジリエンスの中に入っていて、アンケートでは、一次産業はこれから一番連携したいのは観光業で100%となっている。一方で観光のところには一次産業の話が出ていない。地産地消としてのこの地域の魅力づくりということに、一次産業の話も入れるべきであり、重点戦略が3つで良いのか、もう少し分ける必要があると思う。
- 2点意見があり、まず1点目は、もともと産業振興は事業者の創意工夫と自助努力、つまり事業所そのものがどう頑張るかだと思う。製造業という視点で少しお話しすると、今回のビジョン案を見事にまとめたと思うが、ただ残念ながら、A3の追加資料の具体的な施策とあるが、具体的ではない。例えば、「産業用地確保の検討」とありますが、「検討」ということはやらないこともあるということだと思う。具体的な方向性としては「産業用地の確保」と書くべきだと思う。
- また、施策を実際に施行するときに、蒲郡市の事業者や市民が取り組む際には、ここへ話をすれば前へ進む可能性があるという窓口を1本に集約することが重要だと思う。
- 2点目はKPIの件について、通常会社の売上は、今月はどうだったから、来月はこれだけ頑張らましようねと、目標を掲げてやっているが、数値を見ながらやるということではできない。どのように進捗を管理するのかは、知恵が必要となると思う。
- これまでの仕事の仕方から、データに基づいた仕事の仕方への転換は農業においてもすごく重要だと思っている。データの部分があると面白いということは共感する。
- 地域経済循環の促進という中で、地産地消、付加価値の高い地産地消の取り組みを支援しますというような表現がある。地産地消だけで売上を伸ばすことは難しく、地産地消はマーケットが小さいということにも繋がるため、この表現だけを見ると、どういうところを目指すのかなという印象を受ける。
- 農業が「食料の安定供給の確保」になっているのに対して、水産業が「水産物の安定供給の確保」ということなので、水産業が「水産物」と書かれるのであれば農業の部分は「農産物」の方がいいのかなと思う。
- まだまだ全体の中ではうまくまとまっておらず、破綻が起きたりしているところもあると感じた。

- 言葉の定義は、蒲郡市役所と、市民のとらえ方は違うのかなと思う。例えばこのK P IはK G Iじゃないのかなと思う。ゴールに向かっての毎年毎年のアクションについて、K P IのPというのはパフォーマンスなので、パフォーマンスを見る数値でないといけないと思うが、K G IをK P Iという様にするのであれば、そういう様に、ちゃんと説明を書くべきだと思う。
- 「ミッション」「ビジョン」「バリュー」も、会社の中で使っているビジョンの定義と少し違う。ミッションだと、ある意味アクションみたいなところ、例えば月へのミッション、次は月へ行けたら火星へのミッションという、そういう使われ方があると思う。そう思っている方だと、ここの「使命・目的」が少し違う様な理解がされてしまうのではないかと思う。「ミッション」のところは「目的」と書いていただいた方が良く、もしくはカタカナで行くならパーパスとなる。
- このビジョンが2030年の姿を示すということであれば、今説明を聞いても30年後の姿が私は全然イメージできないと思うので、そこをもう少し具体的に数値を入れるなり、何を強化するとか何を作るとか、そういったアクションがあってビジョンになると思う。
- 「バリュー」は、ビジョンを、2030年の姿を作る中で、いろいろ検討する時や迷った時に、これに立ち返っての基本理念ということある。例えば、蒲郡市は、限られた土地しかないわけですから、その中でどの産業を優先してこの特定の土地にその産業振興に使ってもらうかを決める判断基準がこの「バリュー」だと私は思うが、蒲郡市全体の観点で、こういう考え方でこれは譲れないというものを入れながら、「こういう理由でビジョンや30年の姿を作りました」と、分かるようにする必要がある。
- 「蒲郡」と書いてあるところを「豊橋」や「岡崎」や「幸田」と変えても使えてしまうなどという感じがする。蒲郡市ならではの感じられるビジョン体系を、是非作ってほしい。
- 第五次総合計画とか、その下の蒲郡市の産業振興に関する各種計画というそういうのがあって初めて、我々は理解できると思う。市民の方は、情報をいただかないと、パブリックコメントでも、何かコメントしにくいのかなという気がする。
- レジリエンスの強化促進の部分の一番下に観光振興があり、A3の資料と照らし合わせてみると、A3の方に観光振興がない。蒲郡市ならではの、という部分では重要だと思う。蒲郡市としてのしっかりと特徴を出したレジリエンス、ビジョンをつくるということ、を、私もぜひお願いをしたいと思う。
- 優先順位をつけながら、今後一つずつ具体化して取り組んでいくということが、これから求められていると思う。特に広域連携がこれからこの環境問題も含めて非常に影響が出てくると思う。行政区というのはどうしても「蒲郡市の中だけで」という意識を感じるが、これからは自分の所だけが良くても、他の地域との連携がないと将来に向けて前に向いていけないということを感じる。蒲郡市内としては、特に観光は、いろいろなところに影響があるので、業種の連携をしっかりとする必要があると思う。
- 資料5の観光の部分について、観光客目標値は人数で示されている。今後は、人数だけではなく、1人当たりの滞在時間の消費単価や滞在日数、リピーター率などが重要になってくると思う。ただ人数を増やせばいいということは、今後はなくなると思う。蒲郡市に魅力があれば、それに興味のある方が全国全世界から来ていただけるので、様々な分析をしながら、将来蒲郡は観光でどのぐらい経済効果が出ているのかがわかるような指標も、蒲郡市と一緒に出していければと思う。
- 「担い手確保は、喫緊の課題です」とあるが、これは、外海で大きな船で乗組の人を雇ってやっているような漁業についてはそういうことがいえると思うが、私どものような、三河湾、愛知県の沖で操業している人たちにとっては、それ以前の問題で、魚がなくなってしまったので、所得が上がらないから後継者ができないという、はっきり単純な問題である。

- 魚がいなくなってしまったのは、水が綺麗になりすぎたからである。水質の改善という、水を綺麗にすればいいと思っているがそうではなく、海に栄養がなくなったので植物性プランクトンが増えず、植物性プランクトンを捕食している動物性プランクトンも増えず、動物性プランクトンをえさにしている小魚も増えない。小魚がいないので、それを食べる大きな魚も増えず、漁業は魅力のある産業ではなくなってしまった。
- これまである程度所得があり、漁師になりたい人はたくさんいたが、今は魅力のある産業にするためにはどうしたらいいかということを考えないといけない。
- 蒲郡市だけの問題ではなく国の問題で非常に悩ましいが、水が綺麗ではないと観光業としてはまずいかもかもしれないが、水産業としてはあまり水が綺麗になりすぎて、魚やアサリがいなくなると潮干狩りなども一番の問題となる。
- 担い手の確保ということを書くより、もう少し魅力ある産業にするような書き方をして欲しいと思う。
- 蒲郡市産業振興ビジョンと言いながら、どこの都市でも使える振興ビジョンだなというのが第一印象。「蒲郡らしさ」が盛り込まれた具体的施策がないと、当地の将来に繋がらないのかなと思う。
- 例えば、当地主要産業の1つである観光で言うと、恋人の聖地とかドラマや映画や漫画とタイアップした何とか聖地など誘客のための目玉作りができないのか。また、蒲郡と伊良湖は直線距離なら近いのに、自動車で行くと2時間前後かかる。昔は伊良湖と西浦が船で繋がり、もっと早く行けた。船の復活が難しいのであればヘリコプターを使ってはどうかと思う。竹島埠頭周辺にヘリポートを設置し、オーストラリアのリゾート地であるゴールドコーストのように、ヘリコプターで蒲郡市内上空20分コースとか伊良湖等東三河周遊60分コースのような遊覧飛行ができないだろうか。加えて、観光客誘致として中部国際空港や県営名古屋空港(小牧)と当地をヘリコプターで直行できるようにするかドクターヘリ活用による蒲郡市民病院の活性化を図るなど観光以外でも利用ができないだろうか。蒲郡市だからこそのことを、市が中心になって企画、サポートできないのかなと思う。
- 産業振興ビジョンではあるが、目的としては産業振興だけを狙うのではなく、市、企業産業、市民の各々がメリットを得られる、「三方よし」を目指していくべきではないのかと思う。市で言うと、企業や人が増えれば税収増に繋がり、それが企業や市民にとっても行政サービスの充実という形で還元されてくる。このように産業振興を図ることが、当地発展に良い循環を生み、蒲郡市、企業産業、市民の皆に相乗効果をもたらす、そういうことを目指すべきだと感じる。
- 現状分析の産業振興ビジョンの方向性について、蒲郡市に求められている施策が、すべての産業業種に共通していることはとても多くある。課題によっては産業業種の垣根はなく、企業が連携して課題を取り組み、蒲郡市全体で良い連鎖を起こしていけるような体制をつくれると良いと思う。
- その他のご意見として、アンケートの結果から重要度が高いとされている公的支援策の情報提供も含めて、すべての産業企業組織人の活力になる良質な情報提供、情報交換、そして勉強会の場があると良いと思う。

○事務局の回答

- 女性に関するものというのに関しては全くなかったなというところは感じたので、押し出す必要があると思う。
- やはりここ数年、かなり変革があるので少し先ものをイメージして考えていかなくはないといけないということも、大変難しいお題とは感じているが、重要な部分であるかと思う。
- 言葉の定義については、確かにその通りでありますのでどういった表現が最適なのかといったところは、また考えていきたいと思う。

- ・今までどんな計画だとかビジョンについてもKPIというようなイメージが私たちの中ではあったので、KGIという形の方が一般的であるのかとか、このビジョンに相応しいのかとかそういったところもまた、ご助言等をいただいて、考えていきたいと思う。
- ・「繋がる」というキーワードは重要で、ネットワークを構築するということについても、施策体系のところにはうまく取り込めてないと思うので、そのあたりも踏まえて、次回の会議に向けてブラッシュアップを進めていきたいと思う。
- ・次回までに、今日いただいたご意見を踏まえて、事前に修正されたものを持って議論いただけるように、進めたいと思う。

##### 5. 意見提出用紙等での意見

- ・ビジョン成案までに時間が足りない。次回でまとめるのは絶対条件か。元々時間設定が厳しいものであったが、1回分遅れている。
  - ・各産業の課題が総合化されていないので、SWOT分析のような、市産業としての強み、弱み・・・等をまとめてそこからなすべき方向性を入れる分析が必要ではないか。
  - ・前書きの条件として、市の全般的な特徴を追加、時間変化を読むうえで、大まかな産業潮流を書くことも必要である。
  - ・産業の個別活動は各分野が行っている。市としては、その総合化と行政としてできることを進める必要がある。
- 例：産業間の連携が必要→総合戦略会議、ワンストップ窓口の設置  
 産業基盤の供給→産業を促進できる土地利用  
 人材の育成→教育分野との連携  
 イノベーション→スタートアップ支援環境整備
- ・進捗管理できるということがあるが、誰がという点が重要であり、行政としてできる進捗目標と産業界としてできるものがある。産業界から各自のKPIをだしてもらうことも一考してはどうか。
  - ・蒲郡市の農業をアピールする場は必要である。道の駅については充実することで、移住者・後継者の可能性もでてくる。
  - ・蒲郡らしさは、横串(横軸)で設定し、普遍的な目標と蒲郡らしい目標を分けて明示してもよい。
  - ・施策や目標毎に、具体的な事例が示されるのがよい。例えば、マッチング性が高そうな「観光―農業」をデジタルで繋いで(難しく考えず、LINEグループではじめるのもよい。)ニーズとシーズをダイレクトで共有する。(甘いトマトが少ないけど収穫できた→急に仕入れてランチメニューに・・・など)
  - ・カーボンニュートラルの意識が高い施設園芸分野において、カーボンニュートラルへの取り組みを支援しつつ生産性を向上させるための施策へのニーズがある。KPIとしてカーボンニュートラルへの取り組み度合い(従来比@%削減など)や取組件数が挙げられる。
  - ・2段階でのKPIも必要。1段階目は「施策への参加人数」などとし、取組みの姿勢や具体例数をKPIとする。
  - ・熱意人材バンクなど、ビジネス創出を目的としたグループ作りと健全な運営の支援が有効。メンターとして地域新興ビジネスを牽引する人材(小山様など)を配置して、活動の軸がぶれないようにする。
  - ・市職員が主体となる。職員が熱意人材バンクのメンバーになり、産業人材と協働で起業(可能であれば役所内起業・・・)するのもよい(施策を具体化しやすい)。
  - ・アンケートの調査回収率が21%となっているが、残りの8割の中に本当に解決すべき課題や蒲郡らしさが見えてくる可能性が高い。可能であれば引き続きアンケートおよびヒアリング調査を実施したほうが良い。

<p>・システム開発ではウォーターフォール開発とアジャイル開発があり、蒲郡市産業振興ではどちらで臨むのか明確にする必要がある。ウォーターフォールは長期的な目標に向けて突き進む方法で、アジャイルは短期的な目標を掲げリリースと修正を繰り返して長期的な目標を達成する方法である。両方の良いところを取り入れて臨むのも良いかもしれない。</p> <p>・目標を掲げることは大事ではあるが、これを達成するためのサブゴールを用意することが重要であると考えられる。段階的な目標（サブゴール）を置くことと、何をもって達成したとするのかという尺度も用意する必要がある。数値目標だけでなく、達成項目リスト（作業レベルのチェックリスト等）があっても良いのではないかと考える。</p>
---